



関東ブロック中学校
社会科教育研究会
[会長] 佐藤 敏数
[編集] 上田 純一

[事務局]
町田市立鶴川第二中学校
〒一九五-〇〇六一
町田市鶴川六-四

[題字] 初代会長
宮崎 謹一郎



会長あいさつ

会長 佐藤 敏数

(東京都武蔵野市立第二中学校長)

昨年度に引き続き令和七年度関東ブロック中学校社会科教育研究会の会長の任に就かせていただきました。東京都武蔵野市立第二中学校長の佐藤敏数です。六月の理事会において、今年度も会長という大任を会員の皆様から御信任いただきました。まずは、今年度も会員の皆様をはじめ多くの関係者の皆様の御理解・御協力により、本会の運営を進めることが出来ましたことに感謝申し上げます。また、私自身はもとより力はありませんが、会員の皆様の御支援・御協力をいただきつつ、本会の発展と研究の充実に努めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。

【研鑽の灯をつなぐ】

さて、私たちの生活は通常の社会生活に戻っていませんが、一昨年度までは、世界的な危機ともいえる新型コロナウイルス感染症の影響を3年半にわたり受けてきたことは記憶に残るところです。言までもなく、その影響は学校生活にも強く、及

んだところです。そういった状況下において、私たち社会科教員は子供たちの学びを止めないよう、努力と工夫を重ねてきました。またその間に行われた関ブロ中社研の研究大会においても、規模の縮小、開催の延期、オンデマンド配信など、御関係の皆様様の様々な努力と工夫により、研究の灯をつなぐことができました。令和六年度の第四二回研究大会（茨城大会）においては、コロナ禍で得た手法の一つでもある、事前に授業風景を撮影し、大会参加者は大会会場に集合し撮影された内容を観て協議を尽くすという形式で開催しました。運営面で新たな工夫として提案をいただいた大会でした。

【神奈川大会開催にあたって】

第四三回研究大会（神奈川大会）が令和七年十一月七日に神奈川県川崎市にて開催されました。大会の開催に向けて、早くから準備を始め、研鑽を深めていただきました。神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会の皆様、川崎市立中学校教育研究会社会科部会の皆様、そして神奈川大会実行委員会の皆様の熱意と努力に心より敬意を表させ

ていただきます。

令和七年九月に示された次期学習指導要領の論点整理では、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることが出来る民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む」ことが中心コンセプトとして示されました。このコンセプトはこれまで中学校社会科が研究し、取り組んできたことと一致するとともに、これからも中学校社会科が担っていくものであると思います。そういう意味において、大会主題「生きる力を育み、社会的な見方・考え方を働かせ、社会に参画する態度の育成」は本論点整理の中心コンセプトとも軌を一にするものだと考えます。本大会では、生徒が未来を切り開いていくために必要な「主体的に社会形成に参画する態度」を中学校社会科としてどのようにして育成していくかについて、「自分事としてとらえる」をキーワードとして研究・実践に取り組まれてきたことについて発表いただきました。また、大会会場の地となった川崎市の社会科の先生方の思いとして、取り組んできた研究そして実践を参加者に直接見ていただき協議を深めたいとの思いから、集合・対面型の大会として開催いただきました。

【持続可能な研究会として】

本会の発展において最も大事なことは「持続可能な」組織づくりによる研究の継続だと考えます。各団体の課題を共有しつつ、「子供たちのため」を合言葉に研究を継続していくことが必要です。このことは会員の皆様の御理解と御協力なく進めることはできません。どうぞよろしくお願いたします。

第四十三回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会神奈川大会を終えて

神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会

会長 新田 将之

(横須賀市立久里浜中学校長)



令和七年十一月七日、川崎市を会場として開催いたしました「第四十三回関東ブロック中学校社会科教育研究大会神奈川大会」は、関東各都県および関東ブロック外より三百名を超える関係者にご参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆様には、神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会を代表して深く御礼申し上げます。

本大会の運営にあたっては、川崎市立中学校教育研究会社会科部会が中心となり、研究主題の検討、公開授業の準備、会場調整、当日の運営など、多岐にわたる実務を数年にわたり着実に積み重ねてきました。特に、指導案検討やプレ授業を重ねながら、生徒の実態に合わせて授業の質を高めていく姿勢は、研究主題である「社会的事象を『自分事』としてとらえ、主体的に社会形成に参画しようとする態度の育成」を体現するものであり、川崎市の研究活動の厚みを示すものでした。また、神奈川県内各地区の研究会も、レポート提案や大会運営など、多方面で協働的に研究および大会運営を進めました。

公開授業は、東高津中学校、宮前平中学校、富士

見中学校の三会場で五本の授業が実施され、今井研汰教諭、川口優教諭、一本杉剣教諭、石川友則教諭、小林未来教諭が、生徒の実態に根ざした授業を提案しました。生徒の地域性を踏まえた教材づくり、生徒の思考を引き出す発問の工夫、H.C.の効果的活用など、川崎市の学校現場が日頃から積み重ねている実践が随所に見られました。また、前回の川崎大会で授業者や研究主任を務めた先生方が、本大会でも研究推進の中心として関わり、学びが循環し継承されていく体制が確立されていることも印象的でした。

学校規模の縮小や教員数の減少など、各地で大会運営の在り方が問われる中、神奈川大会では「生徒の実態に即した研究を、できる範囲で着実に進める」という方針のもと、無理のない運営と研究の深化を両立させる形が模索されました。これは、今後の関東ブロック大会の一つの方向性を示すものと考えております。

記念講演では、日本理化学工業株式会社 代表取締役社長 大山隆久様より「社員から教わったこと」をご講話いただきました。同社では、「全従業員がつねに『相手の理解力に合わせる』という姿勢を前提とし、素直な心でお互いをただ受け入れ、お互いを知り、理解・納得しながら成長していく」ことを経営理念に据えています。大山様が直接「学

校もそうあるべきだ」と語られたわけではありませんが、その理念が教育の営みにも深く通じることを暗に示唆されていたように感じられました。働くことの意味、人が成長することの本質について深い学びを得る貴重な機会となりました。

本大会の開催にあたり、神奈川県教育委員会、川崎市、川崎市教育委員会、横須賀市教育委員会、全国中学校社会科教育研究会、関東ブロック中学校社会科教育研究会をはじめ、多くの関係機関よりご支援を賜りました。ここに記して深く感謝申し上げます。

次回、第四十四回大会は千葉県で開催されます。神奈川県中社研としても、これまでいただいたご支援への感謝を胸に、引き続き全力で協力してまいります。今大会が、参加された皆様にとって実り多き学びの場となり、社会科教育のさらなる発展につながることを心より祈念し、ご報告ならびにお礼の言葉といたします。

第43回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会

1 期日 令和7年11月7日(金)

2 大会主題

「生きる力を育み、社会的な見方・考え方を働かせ、社会に参画する態度の育成をめざして」

3 研究主題

社会的事象を「自分事」としてとらえ、主体的に社会形成に参画しようとする態度の育成

4 全体会場 川崎市高津市民館(大ホール)

5 分科会場 川崎市立東高津中学校(地理的分野)

川崎市立宮前平中学校(歴史的分野)

川崎市立富士見中学校(公民的分野)

6 記念講演

日本理化学工業株式会社 代表取締役社長 大山隆久 氏

神奈川大会く地理的分野授業報告く

穂谷 幸子

(川崎市立稲田中学校総括教諭)

地理的分野では、日本の地理的分野では「世界の諸地域 アフリカ州」と「日本の諸地域 中国・四国地方」の二つの授業提案を行った。

アフリカ州の授業では、アフリカ州の平均寿命の低さに着目し、人口、食糧、経済、資源に関する資料を読み取って、問題を見出す活動を通して、地域の課題を多面的・多角的に捉え考察する力を育てるために、共通する問題から「単元を貫く学習課題」を生徒たち自らが主体的に設定するという場面を公開し、提案した。また、中国・四国地方の授業では、山間部に位置する上勝町が人口減少している中で、多くの人々から注目を集めている理由について、多面的に考察できるように、さまざまな資料、動画、現地取材等を通して、生徒たちが学びを深めていく場面を公開し、提案した。

どちらの授業も「単元を終えたあとの生徒の姿」を授業者が意識しながら授業展開をし、生徒たちの「疑問」や「気づき」、「思い」を大切にしながら『自分事』に迫ることができるよう手立てがなされている授業であったという評価をいただいた。生徒たちの主体的な対話を促すために、生徒たちは自由に意見交換ができるような工夫がなされ、互いに他者と自分の意見を比較し、より考えを深めることができた授業だったという評価もいただいた。今後も、この点を大切にして取り組んでいきたい。

神奈川大会く歴史的分野授業報告く

多和田 律子

(川崎市立南加瀬中学校総括教諭)

歴史的分野では、「中世の日本」と「近世の日本」の二つの授業提案を行った。中世の日本は、小学校での既習学習ではあるが、これから学ぶ中世について、予想を立てて「単元を貫く課題」を生徒たち自らが主体的に設定するという場面を公開し、提案した。また、近世の日本は、江戸の貨幣経済の広がりに対して、なぜ幕府は止められなかったのかを資料から追究し、改革や一揆につながる歴史の転換点であったことに気付かせ『自分事』に迫るという授業を公開し、提案した。

歴史の授業は、小学校の既習学習ではあるが、どちらの授業もその点を効果的に活かし、生徒たちの育ちを意識して授業展開がなされていたことについて評価をいただいた。歴史の授業は、『自分事』として捉えることの難しさはあるが、どちらの授業も「単元を終えたあとの生徒の姿」を授業者が意識することで、生徒たちも「疑問」や「発見」、「先人への思い」をつなげていくことで、『自分事』に迫ることができるよう工夫されている授業であったという評価をいただいた。

「単元の流れ」「単元構想図」を学習指導案の中に盛り込むことの良さを感じることができた授業であったという評価もいただいた。今回いただいたご意見にあった「生徒たちをより深い学びに向かわせる工夫」については、今後も研究を重ねていきたい。

神奈川大会く公民的分野の研究発表を行って

岡田 真利子

(川崎市立玉川中学校総括教諭)

公民的分野では「市場の働きと経済」の授業提案を行った。市場経済についての理解を深めるために、「身近な〇〇を通して」という場面設定を考え、「一次の課題」「二次の課題」「三次の課題」として単元の流れを工夫しながら授業を進めようとする「一次の課題」場面での公開授業であった。市場経済を「労働者視点」と「投資家視点」の両面から体感できるよう授業を進めようとする前段階の取り組みでもあった。

会場は川崎駅に近く、近隣には多くの商業施設もあることから、題材については生徒たちがかみやすい現状にあり、その地の利をうまく活用しての授業展開となった。生徒たちが、より『自分事』となるよう、個人の意見をまとめる「ベン図」を用いての授業展開については、生徒が思考の整理がしやすいという点で評価をいただいた。

「身近な〇〇」を「身近なおにぎり店」としたことで、生徒たちにとっては、より切実感のある課題となり『自分事』とし捉えることができたのではないかとこの評価もいただいた。

日ごろの授業に取り組むにあたり、公民的分野に限らず「川崎市学習状況調査」の分析を活かしていることは、生徒の実態把握に役立つだけでなく、生徒の学習の深まりを指導者側が理解するという点で、授業改善の一助になっているということも共有された。

第四十四回 関東ブロック中学校社会科教育研究大会(千葉大会)に向けて

千葉県教育研究会社会科教育部会会長

後藤 健次

(千葉市立星久喜中学校長)



一 令和八年度関中社千葉大会に向けて

(一) 大会概要

・ 令和八年十一月六日(金)

・ 会場

公民的分野 千葉市立葛城中学校

地理的分野 千葉市立蘇我中学校

歴史的分野 千葉市立緑町中学校

午前中の全体会・基調提案・記念講演等は、千葉市立葛城中学校体育館で行い、他の二会場へオンライン配信を行います。

(二) 研究主題

『共生社会の実現に向けて主体的に関わる生徒の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～』

(三) 記念講演

講師として、都留文科大学特任教授の鈴木哲雄先生をお招きする予定です。鈴木先生は、日本中世史ご専門の先生で、最新刊として『物流の東国史』が昨年末に発刊されています。

(四) 研究体制その他

今年、令和八年・西暦二〇二六年は、千葉開府九百年という記念すべき年です。千二百二十六年六月

日に、桓武天皇のひ孫である高望王の子孫の常重が現在の中央区亥鼻付近に本拠地をかまえ、初めて「千葉」と名乗り、ここに千葉のまちとしての歴史が始まりました。今回の関中社千葉大会の千葉市立葛城中学校は、その亥鼻の地と目と鼻の先に建っている学校です。

その千葉市の記念すべき年の関中社千葉大会であり、われわれ千葉市の社会科の教員が一丸となり、県下の社会科の先生方と協力し、大会の準備を進めているところです。

特に研究主題に含まれている「共生社会」とは、何かという議論から始まり、地理、歴史、公民のそれぞれの分野で「共生社会」に迫るとは？という点で、研究をすすめていて、実践提案を蓄積しているところです。千葉の研究大会では、地理・歴史・公民の各分野でそれぞれ大学の先生方に共同研究者として、研究内容検討・単元開発・指導案検討等にも加わっていただいています。十一月の関中社千葉大会本番では、関東各都県から多くの社会科の先生方にご参集いただき、忌憚のないご意見をいただければと思っています。

ひとりでも みんなでも もっと学べる!

Live型ドリル教材!

タブドリ

+table+ drill Live!

タブドリLive!は学校や全国の仲間と緩やかにつながりながら、みんなでドリルに取り組むことを目的とした新しいドリル教材です。

中学校 社会

手書きやキーボードを使って解く問題等、豊富な問題形式があります。

東京都

詳しい内容は [こちらをチェック!](#)

東京書籍 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 TEL.03-5390-7577 <https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

公式アプリ

はじめました

授業に役立つ活用例

指導書のポイント解説

定期冊子

App Store からダウンロード

Google Play でインストール

すきま時間に さっと読める

帝国書院

※アプリのログインには帝国書院のWebサイトへの会員登録が必要になります。

茨城県の研究概要

茨城県教育研究会社会科教育研究部長

桑名 実

(水戸市立稲荷第一小学校長)

茨城県では、令和六年度に第四十二回関東ブロック中学校社会科教育研究大会（茨城大会）を開催しました。ご支援・ご協力を賜りました皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

「未来を創る力を高め合う生徒の育成」と「つながり」を見出し、深め、活かす社会科学習を通して「未来を創る力を高め合う生徒の育成」と「つながり」を主題に研究を進めました。より良い社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働することにより、その実現を図っていくことが求められていることから主題を設定しました。この大会の運営については、若手教員の授業力向上という本県の課題克服も目指しました。そこで、令和四年度より県内各地から推薦されたミドル世代の研究推進委員を中心に授業づくりチームを編成し、社会科授業の質を高めるための授業研究を推進してきました。関中社茨城大会の取組をふまえ、今後注視していくのは以下の4点です。①県全体での研究推進・社会科教員の授業力向上は図れたか、②県内各地域における社会科教育推進リーダーの育成が達成できたか、③若手教員への授業づくりへの提案が進んでいるか、④小中連携など、本県の強みを活かした研究の推進につながっているかという点です。特に④の小中連携の面では、令和九年度開催予定の全国小学校社会科研究協議会研究大会（茨城大会）に向けた取組が重要です。したがって研究主題設定にも関中社茨城大会の研究主題にある「つながり」の言葉を引き続

き取り上げました。そこでつくり上げた全小社茨城大会の研究主題は、『つながり』を紡ぐ社会の創り手を育む社会科学習の在り方」です。これまでも本県の社会科で重視してきた「つながり」をキーワードとし、「実社会と過去、未来の社会とのつながり」、「多様な他者とのつながり」、「社会における様々な課題とのつながり」今までとこれからの自分（たち）とのつながり」の4つのつながりを意識した授業づくりに励みます。そして「つながり」を紡ぐ社会の創り手として目指す学習者の姿を「未来に希望をもち、より良い社会を創り出す」とする主体的に学ぶ姿「他者の思いや考えを尊重しながら、協働的に学び合おうとする姿」「自ら課題を設定し、考え、判断・行動できる姿」と捉え、その姿に近づく授業となるように研修を進めてまいります。関中社での取組を活かした全小社茨城大会となるように、本県の小中連携の強みを発揮できるように、進めてまいります。関係各位の皆様には、これからもご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

栃木県の研究概要

栃木県中学校教育研究会 社会部会長

小栗 英樹

(宇都宮市立旭中学校長)

（研究主題）

社会科が好きな生徒を育てるには

どうすればよいか

一 研究主題について

栃中社研では、令和六年度から右の研究主題で

実践研究を進めている。令和七年九月に公表された教育課程企画特別部会の論点整理に、「学びの動機付けをアップデートする必要」「一人一人の『好き』（興味・関心）を育み、『得意』を伸ばしながらそれらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく」との記述がある。本研究主題は、教科教育における普遍的なテーマであると同時に、時宜に合ったものでもある、と考えている。実践を重ねる中で知見を深め、授業の質的向上につなげていきたい。

二 活動の概要について

栃中社研では、毎年八月に夏期研究大会を開催している。令和七年度も例年同様、県内全七地区が実践研究発表をおこなった。

- ・期日 令和七年八月一日(金)
- ・会場 とちぎ青少年センター
- ・内容 各地区からの実践発表と研究協議
- ・地理的分野
 - ・宇河地区「世界の姿」
 - ・那須地区「アフリカ州」
 - ・上都賀地区「中国四国地方」
- ・歴史的分野
 - ・佐野足利地区「中世の日本」
 - ・塩谷南那須地区「古代までの日本」
- ・公民的分野
 - ・下都賀地区「国民の生活と政府の役割」
 - ・芳賀地区「民主政治と政治参加」

当日、栃中社研が永年にわたり御指導いただいている宇都宮大学・松村啓子先生、熊田禎介先生、前宇都宮大学・松本敏先生の三名から、栃中社研が目指すべき「社会科が好き」、まず教師が念入りに学習課題に取り組み重要性や小学校校

会科に対する理解など授業づくりの要諦、評価（見取り）の工夫などについて御指導・御助言をいただいた。これらを生かして研究を一層深めていきたい。

群馬県の研究概要

群馬県小学校中学校教育研究会

中学校社会科部会部会長

三上 浩一

（前橋市立粕川中学校長）

《研究テーマ》
学んだことを自分事として考え、

動き出す生徒の育成

一 研究主題

群馬県の教育ビジョン（二〇二四年度～二〇二八年度）では、他人が足を踏み入れていない領域で自ら進んで動き出す力をもつ「始動人」の育成を核としている。その最上位目標は、一人ひとりの生徒がエージェンシーを発揮することで自律した学習者となることを目指している。また、最終的には自分の人生と社会がより良いものになっていくウェルビーイングな共生社会の実現を掲げている。社会科の資質能力を育成しつつ、それを自分の人生や社会で発揮していくための学びや姿勢についてテーマを設定した。「何のために学ぶのか」という学びの目的を明確にし、「自己決定」「対話と交流」「試行錯誤」といった場面を意図的に繰り返し取り入れ、目標に近づけるように研究に取り組んだ。

二 研究事業

地区別授業研究会（担当：安中市）

① 日時 令和七年十一月二十八日（金）

② 会場 安中市立第一中学校

③ 授業者 善如寺 惇 教諭

（安中市立第一中学校）

④ 指導助言者 佐藤 淳 先生

（西部教育事務所指導主事）

概要

本時は関東地方の学習のまとめである。導入で関東地方、特に東京を中心とする都市部の学習を振り返り、「安中市の人口減少を止めるにはどのようなことができるだろうか」と課題を立てた。本単元で学習した自然環境、交通、環境保全、産業などの事象を関連付けながらグループごとにウェビングで考えを広げ、深める学習活動を行った。考えを深める手立てとして、総合的な学習の時間を『ふるさと安中みらい学』と位置付けて探求を行っていることと関連付けたり、安中市発行のパンフレットや郷土史、駅前の開発計画などを用いたりして、社会科の学びを活用できるよう授業を構成した。生徒がエージェンシーを発揮し、地域課題を自分事として捉え行動を構想する姿は、県が目指す「始動人」の姿につながるものであった。

埼玉県の研究概要

埼玉県社会科教育研究会

高田 信太郎

（さいたま市立仲本小学校長）

一 研究主題 「追究する力を育てる社会科学学習」

本研究会では、令和十年度に開催を控えた本県で初めてとなる全国中学校社会科教育研究大会

（埼玉大会）に向け、令和五年度に実施した第四十一回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉（久喜）大会での研究を継承し、研究を続けるところである。関ブロ久喜大会では研究主題を「よりよい社会の創り手を育てる社会科学学習」副題を「社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と、指導と評価の一体化」と設定し、一定の成果を挙げることができた。その成果を生かし、さらに研究推進に努めていきたい。

二 研究会事業

（一）理事研修会

毎年、県内市町村を単位とする地区ごとの社会科教員の代表が参集し、理事研修会を実施している。今年度は県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 岩田信之 先生を招聘し、県内社会科教育の動向についてご講演いただいた。小・中学校の社会科教員が集まる機会を有効活用し、研究成果の共有や発信に努め、研究の気運を醸成している。

（二）ブロック別授業研究会

研究主題のもと、関ブロ埼玉大会の成果と課題を生かし、県内を五地区に分け、全ての地区で毎年研究授業・協議を実施している。

○十月九日（金）さいたま市立指扇中学校
公民的分野「私たちと政治」

○十月十七日（水）東松山市立南中学校
歴史的分野「琉球やアイヌ民族との関係」

○十一月二十五日（火）加須市立加須平成中学校
歴史的分野「開国と近代日本の歩み」

○十二月十六日（火）鴻巣市立吹上中学校
地理的分野「世界の諸地域 南アメリカ州」

○十二月十七日（水）秩父市立尾田蒔中学校
公民的分野「私たちと経済」

(三) 社会科基礎学力調査

思考力・判断力・表現力を測る問題より、生徒の現状を調査し、指導の改善の資料とすることを目的に、県内五地区から十五名の委員を選出し、問作委員会を二回、分析委員会を二回実施した。本年度は三か年間計画の一年目として地理的分野二問、歴史的分野二問、公民的分野一問作成し、これまで作成した問題と合わせ学習指導要領掲載順に整えた。また、問作委員の所属校の三年生で調査、無作為に抽出した生徒の応答傾向を分析・考察する活動を行った。

東京都の取組

東京都中学校社会科教育研究会会長

成清 敏治

(府中市立府中第二中学校)

※令和七年度 研究主題※

「主体的に社会とつながり、よりよい未来を創造する社会科学学習

―見方・考え方を働かせる主体的活動を中核とした授業デザイン―

1 総会及び講演会

令和七年五月二十三日(金) 十五時

東京都教職員研修センター

総会

- ・令和六年度事業報告、決算報告、監査報告
 - ・令和七年度役員承認、事業計画・予算案承認
- 講演 「社会科の教材研究に役立つ地名の理解
『地名の魔力』」

一般社団法人日本地図センター 客員研究員

今尾 恵介 様

2 社会科地域巡検 令和七年八月六日(水)

公益財団法人日本海事広報協会との連携による海洋教育における巡検

3 研修会(全国・関東・東京都合同開催)

① 夏季セミナー

令和七年八月二十六日(火) 十五時

国立極地研究所

講演 「極地観測の意義と活動」

国立極地研究所広報室長 熊谷宏靖 様

② 冬季セミナー

令和七年十二月二十六日(金) 十五時

文京区立第六中学校

講演 「今後の社会科教育に向けて」

学習指導要領のつながりの下で」

文部科学省初等中等教育局視学官 藤野敦様

4 東京都教職員研修センター連携事業

令和七年九月十八日(木)

東京都教職員研修センター

社会、地理歴史・公民【I】(中学校・高等学校の

授業デザイン 第1回

地理的分野

練馬区立豊玉第二中学校 白澤保典 主任教諭

歴史的分野

中野区立中野東中学校 古川博啓 教諭

公民的分野

新宿区立四谷中学校 佐々木達倫 主任教諭

目黒区立目黒南中学校 藤田琢治 主任教諭

5 東京都小学校社会科研究会との合同研究会

令和七年十月三十一日(金) 十五時

東京都教職員研修センター

講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官

小関 祐之 様

6 全国中学校社会科教育研究会大阪大会における発表

令和七年十一月十四日(金)

地理的分野 サンスクエア堺

発表者 豊島区立千登世橋中学校

鈴木 拓磨 指導教諭

7 社会科指導技術向上研修会(示範授業)

令和八年一月三十日(金) 十三時半

中央区立晴海西中学校

授業者 中央区立晴海西中学校

種藤 博 指導教諭

講師 玉川大学教職大学院 特任教授

元 全国中学校社会科教育研究会会長

高岡 麻美 様

8 三分野合同研究発表会

令和八年二月二十四日(火) 十四時

東京都教職員研修センター

講師 杏林大学非常勤講師

元 全国中学校社会科教育研究会会長

石上 和宏 様

横浜市の取組

横浜市中立中学校教育研究会社会科部会会長

大谷 英輔

(横浜市中立大正中学校長)

《研究主題》

「自分のことばで伝える社会科学学習」

「主体的・対話的で深い学びを目指して」

一 研究主題について

今年度は、生徒の基礎的な読む力や書く力の

向上を目指しながら、生徒が考え、自分のことばによる表現で学習が展開され、「生徒と教材との対話」「生徒同士の対話」が進められることに研究の重点を置いた。

二 授業研究

研究授業と研究協議

令和七年十月二十二日・都田中学校

「琵琶湖は、日本一大きいだけではない？」近畿地方の人々にとつての琵琶湖とはどんな存在だろうか？」(地理的分野・近畿地方)

2学年地理の単元では、琵琶湖が近畿地方に多くの影響を与えていることを人々の生活や人口・交通・農業・工業等の面から捉え、生徒が様々な立場から多面的・多角的に考える授業を展開した。

三 研修事業

(一) 春季講演会 令和七年五月七日(横浜市開港記念会館)

演題「中社会学科における憲法教育の理論と実践」講師 木村 草太 氏(東京都立大法学部教授)

(二) 夏季研修講座 令和七年七月三十日(横浜市開港記念会館)

午前演題「横浜の在日外国人の歴史と現在」講師 竹川 真理子 氏

(在日外国人教育生活相談センター長)

午後演題『「楽しく学ぶ」課題解決型授業づくり』(地理的分野の実践を中心に)

(三) 第五九回浜中社巡検「関東一級河川・荒川巡検」令和七年八月五日

巡検地：扇橋開門、千住大橋、荒川知水博物館
内容：過去に幾度となく荒れ、地域に水害をもたらした荒川について、治水の歴史

や農業・生活用水としての活用について現地を巡りながら学んだ。

① 横浜みなと巡検 令和七年十月二十五日

Aコース：大通公園、吉田橋、馬車道、他

Bコース：初代横浜駅、大棧橋、新港ふ頭、他

② 冬季講演会 令和八年一月二十一日(花咲研修室)

演題「わが国の財政について」(不都合な真実を正視し、打開する)

講師 矢野 康治氏(神奈川大特別招聘教授、元財務省事務次官)

(四) 横浜市立中学校総合文化祭社会科部門
① 社会科研究発表会 令和七年十二月二十日(ニースパーク)

参加校：市内十の中学校

② 社会科作品展
令和七年十二月二十日(市内生徒の作品を展示)

③ ニースパークにて市内生徒の作品を展示

④ その他
① 授業づくり委員会では、対面とリモートで地理的分野の授業づくりについて協議した。

② 人権教育特別委員会では、令和八年三月十六日に東京食肉市場の見学により食肉処理業務について学び、仕事に対する差別や偏見の問題について研修を行った。

事務局だより

事務局長 小島 千恵

(町田市立鶴川第二中学校長)

日頃より、本会運営にあたり、ご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

十一月七日、第四十三回関東ブロック中学校社会科教育研究大会神奈川大会を無事開催することができました。ご参加いただいた皆様ありがとうございます。あわせて、本大会の開催にあたりご尽力いただきました、神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会長 新田将之様、川崎市立中学校教育研究会社会科部会長 金子清様をはじめ関係の皆様から感謝申し上げます。

分科会においては、研究会の先生方による「いつもの教室で、いつもの仲間と、いつもの先生による授業」を大切にしながら、調査分析に基づく実践を発表していただきました。この姿勢は、本大会の研究主題のキーワードである『自分事』として社会現象を捉える態度の育成に欠かすことができないものであり、生徒の学びを見つめ問い直すことにつながるものでありました。

本大会では、先行き不透明で予測困難な現代社会において求められる力の育成として、研究主題「社会的現象を『自分事』として捉え、主体的に社会形成に参画しようとする態度の育成」が掲げられ、その実現に向けた実践が随所に溢れているものとなりました。今後、それぞれの授業実践を通してさらなる研究を進めていく重要性を感じ取った一日となりました。

次年度の研究大会は千葉県で開催されます。今年度同様、皆様との交流と学びを楽しみにしております。

編集後記

感染拡大前と同様に、各都府市の研究活動について、研究授業や集合研修、巡検など活発に活動

できた様子を会報にまとめられたこと、大変うれしく思います。

神奈川大会では神奈川県公立中学校教育研究会社会科部会の皆様を中心に精力的に研究活動を進められた成果を発表され、多くの人が学び、交流する場に恵まれる一年となりました。特に、神奈川県地域の特性を生かした教材について発信していただいたことは、各都県市の先生方にとって、参考になる内容だったように感じました。

この会報に報告いただいている各都県市の研究の成果から様々なヒントを得て、少しでもそれぞれの地域の社会科教育が発展していくことをとともに、来年度も千葉大会をはじめとし、様々な授業実践に恵まれ、本年度以上に「子供たちのため」になる研究が充実していかれますことを祈念いたします。

編集部長 上田 純一
(中央区立晴海西中学校副校長)

会 長	佐藤 敏数 (武蔵野市立第二中学校校長)
副会長	新田 将之 (横須賀市立久里浜中学校校長)
副会長	後藤 健次 (千葉市立星久喜中学校校長)
副会長	桑名 実 (水戸市立稻荷第一小学校校長)
副会長	小栗 英樹 (宇都宮市立旭中学校校長)
副会長	三上 浩一 (前橋市立粕川中学校校長)
副会長	高田信太郎 (さいたま市立仲本小学校校長)
副会長	成清 敏治 (府中市立府中第二中学校校長)
副会長	大谷 英輔 (横浜市立大正中学校校長)
常任理事	並木 茂男 (三鷹市立第三中学校校長)
常任理事	田中 繁広 (文京区立第六中学校校長)
常任理事	村田 雅也 (足立区立花保中学校校長)
常任理事	中野 英水 (東久留米市立中央中学校校長)
事務局長	小島 千恵 (町田市立鶴川第二中学校校長)
事務局長	荒井 亮宏 (東村山市立第三中学校校長)
研究調査部長	上田 純一 (中央区立晴海西中学校副校長)
研究調査部長	松井 敏孝 (東久留米市立中央中学校副校長)
監 査	松浦 素明 (杉並区立神明中学校校長)
監 査	辻 成一郎 (杉並区立中瀬中学校校長)
監 査	関 眞規子 (文京区立第六中学校校長)
研究部	西村 泰加 (横須賀市立大津中学校校長)
研究部	宮内 孝浩 (銚田市立銚田南中学校校長)
研究部	剣持 智之 (群馬大学共同教育学部附属中学校校長)
研究部	鈴木 和博 (さいたま市立木崎中学校校長)
研究部	恩田 宗生 (佐野市立葛生義務教育学校校長)
研究部	五十嵐辰博 (千葉大学教育学部附属中学校校長)
研究部	井上 弘毅 (横浜市立金沢中学校校長)
広報部	隅田登志意 (杉並区立高井戸中学校校長)
広報部	高橋 健人 (横須賀市立田浦中学校校長)
広報部	羽石 直弥 (茨城大学教育学部附属中学校校長)
広報部	生方 佑樹 (群馬大学共同教育学部附属中学校校長)
広報部	細野 悠司 (埼玉大学教育学部附属中学校校長)
広報部	零 祐介 (宇都宮市立上河内中学校校長)
研究部	五十嵐辰博 (千葉大学教育学部附属中学校校長)
広報部	鬼木 勝 (横浜市立末吉中学校校長)

すべての先生が自分だけの指導書として使えます!

令和7年度 中学社会 地理/歴史/公民

Myデジタル シリーズ (指導書セット同梱)

「働き方改革」につながると多くの方から大反響!

単元ごとの構成で授業準備が簡単!

単元で必要なデータを完備

- ワークシート ●図版集 ●評価問題

用途に応じたデータをダウンロードできます。

スマホからもスムーズ!

①新機能「Myデジタル準備室」からコンテンツが使用可能に。
 ②各ページへの書き込みや、他の資料へのリンク設定など、カスタマイズできる指導書に。
 ③全学年のコンテンツを、各先生がいつでも利用可能に。
 ④本欄上のコンテンツの横断検索も。

教育出版 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10
TFTビル西館5F TEL 03-5579-6278